

## 第 45 回 基礎化学工学演習講座（第 1, 2 クール）

主 催 (公社) 化学工学会東海支部

共催 (予定) 静岡化学工学懇話会, 東海化学工業会, (公社) 日本分析化学会中部支部, (公社) 日本化学会東海支部, (一社) 資源・素材学会, (公社) 高分子学会東海支部, (一社) 日本原子力学会中部支部, (一社) 廃棄物資源循環学会, 日本溶剤リサイクル工業会, (一社) 日本機械学会東海支部, (一社) 日本エネルギー学会, 化学工学会産学官連携センターグローバルテクノロジー委員会

協賛 (予定) 名古屋市工業研究所, (公財) 名古屋産業振興公社, (公社) 日本水環境学会, (一社) 電気学会東海支部, (一社) 粉体工学学会, (公財) 中部科学技術センター, (公社) 電気化学会東海支部, (公社) 有機合成化学協会東海支部, I S P E 日本本部, 日本 P D A 製薬学会, 製剤機械技術学会, 日本金属学会・日本鉄鋼協会東海支部

日 程 第 1 クール: 6 月 14~16 日 (月~水) 9:45~17:15 (昼食休憩: 13:00~14:00)  
第 2 クール: 7 月 1~2 日 (木~金) 9:15~16:45 (昼食休憩: 12:30~13:30)

対 象 第 1 クール: 基礎から応用例を学びたい方. 工学部卒, 高専卒程度の知識のある方.  
物質収支, 熱収支, 移動論の基礎から実践的な例を学びます.  
第 2 クール: 初めて化学工学を学びたい方. 初めてプラント設計, 運転に携わる方. 高専程度の知識がある方.  
プラントや実験装置で起こる物質収支, 熱収支の基礎を学びます.

昨今では, AI や IoT など踏まえつつスマート化を目指した化学プラント構築の模索が行われておりますが, 化学工学の理論との整合性を踏まえて行われる必要があります. また, 高純度化を目指すプラント設計やトラブル解決のためにも化学工学の専門的な知識を持つ技術者の存在は, ますます重要となっております.

本講習会では, 受講者のレベルに応じて 3 つのクールを用意しました. プラントの設計や運転には関わっているが化学工学を勉強する機会がなかった初心者の方, さらに専門的な知識を習得したい技術者の方まで, 原理や理論の説明に加え, 豊富な事例に基づく例題を解きながら学べる機会を提供します. 2021 年度は, Zoom (または Microsoft Teams) を利用したライブ配信により開催します. チャットや音声通話機能を用いて, 参加者からの質問を受け付ける予定です.

なお, 第 3 クール以降も, 順次開催する予定です. 是非聴講をご検討ください.

定 員 第 1, 第 2 クール: 各 90 名 (いずれも定員になり次第締切)

(企業向けの講座ですが, 学生が受講されても構いません. ただし, 定員を超えた際には企業の方を優先させていただきます. 申込者数が最少催行者数に到達しない講義については, 開催しない場合があります.)

会員特典 化学工学会正会員, 学生会員ならびに法人会員会社社員の方は, 本講座の受講者に限り, 各クールで利用するテキストを特別販売いたします.

\*第 2 クールで利用するテキスト: 『基礎化学工学』(共立出版) 税込 3,300 円→1,500 円

\*第 1 クールで利用するテキスト: 『改訂第 3 版 化学工学』(朝倉出版) 税込 2,750 円→1,000 円

テキストをお持ちでない場合は, 参加費にテキスト代を加えてお申し込み下さい.

参加費 (消費税を含む)

	第 1 クール	第 2 クール
日 数	3 日間	2 日間
化学工学会正会員	¥25,000	¥15,000
化学工学会法人会員会社社員	¥30,000	¥20,000
共催・協賛団体会員	¥35,000	¥25,000
学生会員	¥10,000	¥8,000
会員外	¥60,000	¥50,000

【注】第 1 クールは 3 日間, 第 2 クールは 2 日間連続して行われます.

申込方法 化学工学会東海支部ホームページにアクセスし, 「参加申込フォーム」からお申込み下さい.

<http://scej-tokai.org/>

※本講座は, ビデオ会議ツール「Zoom」(または「Microsoft Teams」) ライブ配信となります. 推奨環境については, 当該ツールをご参照ください. 後日, 視聴用の URL を別途メールにてご連絡いたします. ライブ配信に関する注意事項は, 別途参加申込者に連絡されるメールよりご確認ください.

申込締切 第 1 クール: 5 月 31 日 (月)

第 2 クール: 6 月 18 日 (金)

送金方法 現金書留または銀行振込

みずほ銀行 名古屋支店 普通預金 No. 1055521 「公益社団法人化学工学会東海支部」

ゆうちょ銀行 名古屋 00880-7-5640 「公益社団法人化学工学会東海支部」

問合せ先 化学工学会東海支部

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 生命・応用化学科 化学工学研究室内

<http://scej-tokai.org/> TEL:080-4525-3070

プログラム

	月 日	時間	講義	内 容	講 師
第1クール (基礎)	第1日 6月14日(月)	午前	化学工学 基礎・拡散	単位と次元 (II), 状態方程式 (II)	名古屋工業大学 名誉教授 多田 豊氏
		午後		収支, 拡散, 物質移動, 燃焼計算	日油(株) 押川貴成氏
	第2日 6月15日(火)	午前	流 動	流体の流れと計測, 円管内の流れ, 流体と輸送	名古屋工業大学 岩田修一氏
		午後		流体輸送機器の設計と実際	三井化学(株) 秦 裕作氏
	第3日 6月16日(水)	午前	伝 熱	伝導伝熱, 対流伝熱, 放射伝熱	名古屋大学 窪田光宏氏
		午後		熱交換器などの設計と実際	中部電力(株) 中山 浩氏
第2クール (初歩)	第1日 7月1日(木)	午前	化学工学の 入門	単位と次元 (I), プロセス変数, 状 態方程式 (I)	静岡大学 立元雄治氏
		午後		物質収支の基礎, 複雑なプロセスの 物質収支, エネルギーの基礎	静岡大学 前澤昭礼氏
	第2日 7月2日(金)	午前		反応系のエネルギー収支	静岡大学 福原長寿氏
		午後		化学プロセスの基礎, 化学プロセス の計算	静岡大学 武田和宏氏

第3クールのご案内

ガス吸収, 蒸留, 抽出・吸着, 粉粒体操作, 固液分離, 調湿・乾燥, 攪拌・混合, 反応工学, プロセス制御の各講義を1日単位で開講予定です。開催時期は7-8月の予定です。

参加の際の注意

- (注1) 関数電卓, 定規を使用する場合がございますのでご用意ください。
- (注2) 本講座の配布資料や配信動画は著作物のため, 複写・録音・録画・転載・上映・無断公開等を禁止いたします。
- (注3) 受講者様に起因する視聴トラブルについては, 弊会は責任を負えませんのでご理解ください。

プログラム (講義概要)

第1クール【化学工学基礎・拡散】

6月14日(月) 午前 講師: 名古屋工業大学名誉教授 多田 豊氏

単位, 次元とは何か, なぜ単位換算は重要なのか, 物質移動や熱移動等における複雑な現象を有用な無次元式として導出できる次元解析を解説, 演習する。

また, 気体の体積は圧力, 温度により大きく変化し, 工場の装置の設計, 運転において, これら圧力・温度・体積の関係をj知ることjは重要である。この関係をj低圧からj高圧まで正確に表せる3次状態方程式と, その解法として優れた数値計算法であるNewton法をj解説, 演習する。

6月14日(月) 午後 講師: 日油(株) 押川貴成氏

化学プラントをj操作設計する際j, 物質, エネルギーがj内部でどのような動きをしているのかj把握しておくことは極めて重要である。化学プラント設計のjベースとなる物質収支およびエネルギー収支, また収支計算の応用である燃焼計算について, 基本的な手法をj解説し, 演習を行い, 理解をj深める。また, 拡散, 物質移動について, 基本的な概念をj解説する。

第1クール【流動】

6月15日(火) 午前 講師: 名古屋工業大学 岩田修一氏

化学工業プロセスにおいてはj流体(液体, 気体)をj輸送管により輸送している。輸送管や配管, ポンプなどの輸送機器のj選定には, 輸送エネルギーをj求めることが重要となる。この講義では, 「流体の流れと計測」, 「円管内の流れ」, 「流体と輸送」を通してj輸送エネルギーをj求めるための計算の原理や方法を説明し, 理解をj深めるための演習を行う。

6月15日(火) 午後 講師: 三井化学(株) 秦 裕作氏

流体輸送機器のうちjポンプにj焦点を当て, 実務で必要な知識を説明する。主な講義内容は, ①ポンプの分類, 構造, ②ポンプ選定時の前提条件(流量, 揚程, 動力, 材質), ③ポンプの性能曲線, ④キャビテーションとその対策, ⑤ポンプ・配管設計時の注意点。講義の合間にj演習問題を行う。

第1クール【伝熱】

6月16日(水) 午前 講師: 名古屋大学 窪田光宏氏

伝熱はあらゆるプロセスにj介在し, 反応温度のj制御, 熱損失のj低減, 熱交換などに対してj支配的な役割を担っている。本講座では, 伝熱の3つの形態であるj伝導伝熱, 対流伝熱, 放射(輻射)伝熱のj伝熱原理や基礎式のj導出をj解説する。さらに, 定常状態におけるj各伝熱形態のj伝熱量のj算出についてのj演習, 解説を行う。

6月16日(水)午後 講師：中部電力㈱ 中山 浩氏

熱交換器に関する業務に携わる際の入門として本講義を活用可能なことを狙いとし、前半は熱交換器の種類や基礎式などの基礎知識について学び、後半はNTU法を用いたより実践的な熱交換器の設計方法/性能改善方法について学ぶ。講義は「化学工学-解説と演習」の例題や演習問題を用いて、演習を中心に進める。

## 第2クール【化学工学の入門(初歩)】

7月1日(木)午前 【単位と次元(I)、プロセス変数、状態方程式(I)】

講師：静岡大学 立元雄治氏

単位と次元、プロセス変数および気体の状態方程式についての基本事項を解説し、演習問題を行う。単位と次元および状態方程式については、基本的なもの(SI単位、単位換算、理想気体と実在気体の違い)を取り上げ、第2クールにてさらに発展した内容を取り扱う。プロセス変数では、質量、体積、密度、流量と流速、化学組成、圧力、温度についてその概要と測定法を取り上げる。

7月1日(木)午後 【物質収支の基礎、複雑なプロセスの物質収支、エネルギーの基礎】

講師：静岡大学 前澤昭礼氏

様々なプロセスが存在するが、そのプロセスにおける最も基本的な概念は物質収支である。化学反応が伴っていても、時間とともに状態が変化する場合でも、物質収支が基礎となる。また、エネルギー収支についても同様である。この講義では、物質収支の基礎とその応用およびエネルギーの基礎について説明をし、理解を深めるために演習を行う。

7月2日(金)午前 【反応系のエネルギー収支】

講師：静岡大学 福原長寿氏

化学反応プロセスの設計においては、物質収支と同様にエネルギー収支の取り方を身につけておく必要がある。本講義では、反応プロセスに関する簡単なエネルギー収支の取り方を紹介し、得られるエネルギー情報をプロセス設計にどのように反映させるのかについて、事例をもとに説明する。

7月2日(金)午後 【化学プロセスの基礎、化学プロセスの計算】

講師：静岡大学 武田和宏氏

化学プロセスを理解することを難しくしている要因である「対象の状態を直接観察することができない」、「副生成品の存在」、「リサイクル構造」について学ぶ。また、化学プロセスの段階的な設計(概念設計、基本設計、詳細設計)や標準化の重要性を学ぶ。さらに、リサイクル構造を含む複雑な収支の計算、および省エネルギーを目的とする熱交換量の計算について例題を解きながら学ぶ。